

事業報告

沖縄都市モノレール株式会社

事業報告

〔 自平成 23 年 4 月 1 日 〕
〔 至平成 24 年 3 月 31 日 〕

I. 会社の現況に関する事項

1. 営業の概況

(1) まず乗客数の動向をご説明いたします。

平成 23 年度は、4 月、5 月、6 月、と東日本大震災の影響もあり、前年比平均 5.2%のマイナスとなりましたが、7 月に底を打ち、8 月の「週刊少年ジャンプ」とのタイアップによるスタンプラリー等により回復軌道にのりました。今年度の乗客数は累計 13,391 千人、前年比 415 千人の増加になりました。また、一日あたり平均乗客数は 36,689 人で前年比 3.2%の増加となっております。

(2) 昨年 2 月の運賃値上げに際し、お客さまの利便性向上のため新たなサービスを導入いたしました。なかでも、おとなりきっぷ（ワンコイン 100 円）、1 日乗車券（24 時間有効）は、大きな需要を喚起いたしました。それぞれ毎月の平均発行枚数が 66,272 枚、29,551 枚となっており、利用者の増加につながりました。

(3) また、ラッシュ時の運行を 6 分間隔から 5 分間隔に変更するとともに平日運転本数、土・休日運転本数を計 8 本増加させ、輸送力のアップと同時に混雑率の改善に努めました。併せて各種イベントに合わせて臨時列車の増便（年合計 49 本増）も図りました。

(4) 駅周辺では、さいおんスクエアの完成と公民館・プラネタリウムの新開設、沖縄セルラー球場及び奥武山公園のイベント会場としての活用が活発になりました。また、おもろまち駅、壺川駅前には大型のコールセンターの移転開業などがありました。さらには、修学旅行生によるモノレールの利用・外国人観光客の利用増が目立ちました。

2. 経営の状況

(1) 平成 23 年 11 月 25 日付けで沖縄県・那覇市・沖縄振興開発金融公庫及び当社で、「金融支援に関する協定書」を締結いたしました。これは、当社のキャッシュフローの範囲内で平成 23 年 10 月より向う 5 年間借入金元本 4 億 5 千万円を返済する内容です。これにより当社の資金繰りが安定し、本来の営業活動に専念できることとなりました。

- (2) 平成 23 年 8 月 30 日浦添延長に関する「軌道運輸事業特許申請」を国土交通大臣宛提出し、平成 24 年 1 月 26 日付をもって特許状の交付を受けました。

浦西駅（仮称）で沖縄自動車道と直結し、1000 台規模の駐車場を設置することで本格的なパークアンドライドを実現します。南北を結ぶ公共交通基幹軸となります。新路線の開通は平成 31 年度を予定しております。

- (3) さらに、延長と関連して当社の中長期経営計画を公表致しました。収支計画では単年度損益好転年次を平成 30 年度、債務超過解消年次を平成 37 年度と計画しております。今回の中長期経営計画の特長は、経営理念を明示的に打ち出したことにあります。現在の役員従業員の殆んどが、それぞれ別の職歴があり、年令もまちまちです。社内の職種も全く異なるものがあります。全員が一つの方向を目指すための“旗印”が必要な会社なのです。

沖縄都市モノレール株式会社の使命と価値観を共有することが求められています。それはこうです。

使 命 「人と街を結び、人と人とを結び、人に優しい県内唯一の軌道系公共交通としての使命を果たす。」

価値観 「公共交通基幹軸を担う誇りと共にお客さまを大切に思う心をもって組織を運営し、安全で、快適な「ゆいレール」との信頼を構築する。」

3. 決算計数についてご説明いたします。

- (1) 当期利益 △886 百万円 （前年比 3 百万円）
減価償却前
利益 510 百万円 （前年比 △54 百万円）

- (2) 運輸収入は、2,404 百万円で前年比 134 百万円 5.9%の増加になりました。乗客数の増加と客単価の増加によるものです。運輸雑収入は 1.8%増で、うち広告事業 5 百万円増で 5.9%の増加となりました。合計の営業収益は、2,545 百万円 前年比 137 百万円 5.7%の増収でありました。

- (3) 営業費は、減価償却費 1,396 百万円を含め 3,147 百万円となっており、前年比 144 百万円の 4.8%の増加となりましたが、営業損失は 602 百万円とほぼ前年並みとなりました。また、減価償却費の減少がありましたが、経年劣化による修繕費の増加が 153 百万円 前年比 40.0%増があり、営業損益としては改善しておりません。

その他営業外損益と特別損益を加減して上記の当期利益、減価償却前利益となっております。

- (4) 減価償却前利益とは、人件費、修繕費、動力費、諸経費、借入金利息等社外に流出する費用全てを払い終わって手元に残るキャッシュを意味しております。償却前利益は開業以来黒字を計上しており、当社の経常的な経営、運行のために税が投入されることはありません。

4. 資金調達の状況

期限のくる借入金元本返済（6月末、9月末）及び修繕費等の支払のため、手元キャッシュフローでは不足分を沖縄県・那覇市のモノレール事業基金から借入いたしました。それぞれ287百万円で計575百万円であります。（無利子、15～16年据置き）。

また、県・市が所定の手続きを終えるまでの間、市中銀行から“つなぎ”融資546百万円を受け、平成23年度内には完済しております。

5. 対処すべき課題

- (1) 浦添市への延長に関する特許状には「工事施工認可申請は平成25年1月25日までとする」と条件が付されており、申請業務に遺漏なきよう手続きを進めていきたいと考えております。
- (2) 公表しております中長期経営計画の初年度にあたり、明るい展望をもって実現に万全を期してまいります。さらに、前述の経営理念の浸透と共通の価値観の確立を図り、全役職員で一致協力して経営にあたってまいります。
- (3) ICカードシステムの導入について、沖縄県と共同で実施方法の検討を進めてまいります。

貸借対照表

(平成24年 3月31日 現在)

(単位:千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-----------|--------------|----------|--------------|
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 685,469 | 流動負債 | 915,018 |
| 現金・預金 | 398,852 | 短期借入金 | 450,000 |
| 営業未収金 | 19,154 | 未払金 | 36,891 |
| 未収金 | 5,916 | 未払費用 | 290,281 |
| 未収収益 | 32 | 未払消費税 | 19,251 |
| 貯蔵品 | 222,752 | 未払法人税等 | 11,342 |
| 前払費用 | 1,708 | 預り金 | 19,173 |
| 立替金 | 37,053 | 前受運賃 | 78,090 |
| | | 前受金 | 9,988 |
| 固定資産 | 21,230,148 | 固定負債 | 26,135,708 |
| 有形固定資産 | 21,079,431 | 長期借入金 | 26,040,544 |
| 土地 | 5,107,385 | 退職給付引当金 | 95,164 |
| 建物 | 3,998,125 | | |
| 構築物 | 18,060,178 | | |
| 車両 | 6,575,550 | 負債合計 | 27,050,726 |
| 機械装置 | 1,674,704 | (純資産の部) | |
| 工具・器具・備品 | 490,492 | 株主資本 | △ 5,135,108 |
| 減価償却累計額 | △ 14,827,005 | 資本金 | 7,333,650 |
| 無形固定資産 | 76,485 | 利益剰余金 | △ 12,468,758 |
| 電話加入権 | 591 | その他利益剰余金 | △ 12,468,758 |
| 商標権 | 1,442 | 繰越利益剰余金 | △ 12,468,758 |
| 電気供給施設利用権 | 63,335 | | |
| ソフトウェア | 11,116 | 純資産合計 | △ 5,135,108 |
| 投資その他の資産 | 74,232 | | |
| 長期前払費用 | 73,868 | | |
| その他の投資等 | 1,294 | | |
| 貸倒引当金 | △ 930 | | |
| 資産合計 | 21,915,618 | 負債・純資産合計 | 21,915,618 |

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

第30期(自:平成23年4月1日 至:平成24年3月31日)

(単位:千円)

| 科 目 | 金 | 額 |
|--------------|-----------|-----------|
| 営業収益 | | |
| 旅客運輸収入 | 2,404,493 | |
| 運輸雑収 | 140,630 | 2,545,123 |
| 営業費 | | |
| 運送費 | 1,384,472 | |
| 案内宣伝費 | 69,189 | |
| 一般管理費 | 142,039 | |
| 諸税 | 155,193 | |
| 減価償却費 | 1,396,731 | 3,147,626 |
| 営業損失 | | 602,502 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 103 | |
| 雑収入 | 11,931 | 12,035 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 292,047 | 292,047 |
| 経常損失 | | 882,514 |
| 特別利益 | | |
| 補助金 | 53,940 | 53,940 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産圧縮損 | 53,940 | 53,940 |
| 税引前当期純損失 | | 882,514 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 3,800 |
| 当期純損失 | | 886,314 |
| 減価償却前利益 | | 510,416 |

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位:千円)

| | 株 主 資 本 | | |
|--------------|-----------|--------------|-------------|
| | 資本金 | 利益剰余金 | 株主資本合計 |
| | | その他利益剰余金 | |
| | | 繰越利益剰余金 | |
| 平成23年4月1日残高 | 7,333,650 | △ 11,582,444 | △ 4,248,794 |
| 当期変動額 | | | |
| 当期純利益 | | △ 886,314 | △ 886,314 |
| 当期変動額合計 | - | △ 886,314 | △ 886,314 |
| 平成24年3月31日残高 | 7,333,650 | △ 12,468,758 | △ 5,135,108 |

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュフロー計算書

(単位:千円)

平成23年4月1日～平成24年3月31日

| | | |
|--------------------------------------|----------|-----------|
| I. 営業活動によるキャッシュフロー | | 617,070 |
| II. 投資活動によるキャッシュフロー | | △ 177,937 |
| ・車両列車無線用非常電源新設 及び運賃改定機器改造費等 | △286百万 | |
| ・補助金 | 109百万 | |
| III. 財務活動によるキャッシュフロー | | △ 78,770 |
| ・借入返済額 | △ 654百万円 | |
| ・モノレール基金借入額 | 575百万円 | |
| IV. 現金及び現金同等物の増加 (I + II + III) | | 360,363 |
| V. 現金及び現金同等物期首残高 | | 38,491 |
| VI. 現金及び現金同等物期末残高 (IV + V) | | 398,852 |